

ロイヤルアカデミー展

ターナーから
ラファエル前派まで…
美の殿堂、一挙公開

イギリス美術の
華麗なる
150年

*Genius and Ambition
The Royal Academy of Arts,
London 1768-1918*

2014年12月6日(土) - 2015年1月25日(日)

【プレスリリースのお問い合わせ】

展覧会担当：小川・森谷 広報担当：青木・大庭

静岡市美術館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F info@shizubi.jp
Aoi Tower 3F, 17-1, Kouya-machi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

イギリス・ロンドンにあるロイヤル・アカデミー・オブ・アーツは、1768年に国王ジョージ3世の庇護のもと、画家や彫刻家、建築家、版画家らによって創設された歴史ある芸術機関です。アカデミーは、芸術家への支援だけでなく、芸術家を目指す学生たちに無償の教育を提供する美術学校も併設し、若手の育成にも力を入れていました。アカデミーの創設によりイギリスの美術は発展を遂げ、世界で活躍するアーティストも次々と生まれ、アカデミーはイギリスにおける「美の殿堂」となっていました。本展では、ロイヤル・アカデミーの貴重なコレクションから、レノルズ、ゲインズバラ、ターナー、カンスタブル、ミレイ、サージェント等の絵画の他、アカデミーの教育で実際に使われていた資料など約100点を展示します。

20世紀初頭までのアカデミーの歩みとともに、華麗なるイギリス美術の世界をお楽しみください。



開催要項

■ 開催期間 2014年12月6日(土)～2015年1月25日(日)【41日間】

■ 休館日 毎週月曜日<ただし1月12日(月・祝)は開館、翌13日(火)は休館>、12月30日(火)～1月1日(木・祝)

※新年は1月2日(金)より開館いたします。

■ 開館時間 10:00～19:00(展示室入場は閉館の30分前まで)

■ 観覧料 一般1,300(1,100)円、大高生・70歳以上900(700)円 中学生以下無料

* ()内は前売および当日に限り20名以上の団体料金

* 障害者手帳等をご持参の方および介助に必要な方は無料

■ 前売券 10月21日(火)から12月5日(金)まで販売

静岡市美術館、チケットぴあ[Pコード:766-382]、ローソンチケット[Lコード:40594]、セブンチケット[セブンコード:033-125]、谷島屋呉服町本店、谷島屋マークイズ静岡店、戸田書店静岡本店、戸田書店城北店、江崎書店パルシェ店、MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店

* お得な一般前売ペア割チケット 2枚1組 2,000円

取扱場所: 静岡市美術館、チケットぴあ[Pコード:766-383]、ローソンチケット[Lコード:40595]、セブンチケット[セブンコード:033-126] ※当日ペア割チケットの販売はございません。

■ 主催等 主催: 静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財) 静岡市文化振興財団、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ、テレビ静岡、中日新聞東海本社

後援: 静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、ブリティッシュ・カウンシル、静岡リビング新聞社、K-mix、中日ショッパー

特別協賛: **静岡トヨタ**

協賛: 大日本印刷

協力: 東京富士美術館

輸送協力: KLM オランダ航空、日本航空



©Royal Academy of Arts, London: Photographer: John Hammond



チャールズ・ウェスト・コウプ
《1875年度のロイヤル・アカデミー展出品審査会》 1876年 油彩・カンヴァス

本展のみどころ

- ① 出品作品の半数以上が、日本初公開。
- ② 創立期～20世紀初頭までのロイヤル・アカデミーの150年間の歩みを、約100点の作品・資料で紹介。
- ③ 約27,000点を数えるアカデミーのコレクションの中から、レノルズ、ゲインズバラ、ターナー、コンスタブル、ミレイ、サージェント等、イギリス美術を代表する作家たちの作品を一堂に展示。
- ④ ロイヤル・アカデミーの企画・監修による、国際巡回展として開催。

(本年3月2日～6月9日までオーストラリアにて開催。

また本年8月1日～31日まで石川県立美術館、9月17日～11月24日まで東京富士美術館で開催。)

12月10日は
ロイヤル・アカデミー創設の日!

当日ご来館の方先着100名様に展覧会オリジナルポストカードをプレゼント!

※展覧会をご観覧の方に限ります。

I. 設立：名声への道、1768-1837

Foundation:
The Road to Fame, 1768-1837

1768年12月10日、国王ジョージ3世の庇護のもと、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツが設立されました。本章では設立当初から、アカデミー創立メンバーの一人で建築家のウィリアム・チェンバースがジョージ3世のために再建した建物である「ニュー・サマセット・ハウス」に本拠を置いていた時代を紹介します。

設立目的の一つであった、パトロンのお好みに捉われない、芸術家自身による年1回の展覧会（年次展覧会）の開催は、当時のイギリス美術界に大きなインパクトを与えました。初代会長レノルズは、「歴史画（物語絵画）」を頂点とする絵画のジャンルのヒエラルキーを説き、初期のアカデミー会員の作品にはその影響がみられます。一方、地位が低いとされた「風景画」については、当初アカデミーは制作を奨励していませんでしたが、人々からの人気を背景に、ゲインズバラやターナー、コンスタブルらによって表現が深められていくようになります。



©Royal Academy of Arts, London

初代会長による、 アカデミーの図書館の天井画。

ジョシュア・レノルズ 《セオリー》
1779-80年 油彩・カンヴァス

日本
初公開

コンスタブルに 影響を与えた画家による、 理想的な風景。

トマス・ゲインズバラ
《泉に羊のいるロマンティックな風景》
1783年頃 油彩・カンヴァス

日本
初公開



©Royal Academy of Arts, London; photographer: Prudence Cumming Associates Limited

27歳の若さで
正会員となったターナーが
「ディプロマ作品*」として
アカデミーに提出した作品。

*ディプロマ作品…

会員として選出された際に、自分の技量を示すものとして
アカデミーに提出する作品。
アカデミーのコレクションの基礎となっている。

ジョセフ・マラド・ウィリアム・ターナー
《ドルバダーン城》 37年ぶりの来日
1800年 油彩・カンヴァス



©Royal Academy of Arts, London; photographer: Prudence Cuming Associates Limited



©Royal Academy of Arts, London; photographer: Prudence Cuming Associates Limited

イギリスの田園風景を
こよなく愛した画家の名作。

ジョン・コンスタブル 《水門を通る舟》
1826年 油彩・カンヴァス 28年ぶりの来日

Ⅱ. 国家的地位の確立、1837-1867

National Status Confirmed,
1837-1867

ヴィクトリア女王が即位した1837年、アカデミーは「サマセット・ハウス」からナショナル・ギャラリーの東翼部に移転しました。この間、年次展覧会の入場者数は年々増加し、また18世紀半ばから始まった産業革命により、中流階級が新たなパトロン層として登場します。この時代に好まれたのは、日常生活を題材としたものや、シェイクスピア作品の一場面取材したもの、そして画家ランシアが描いたような「歴史画（物語絵画）」と「動物画」を結びつけたような作品でした。

またイギリスのアフリカ・アジアへの進出を背景に、オリエンタルな景観や文化への関心が高まり、そうした風景を描いた作品も増えていきました。



©Royal Academy of Arts, London; photographer: John Hammond

動物に
人間的な感性を持たせて描き
人気を博した画家。
犬の悲しみが
今にも聞こえてきそう。

エドウィン・ランシア

《忠実な猟犬》

1830年頃 油彩・カンヴァス

日本
初公開

カイロの街中での一コマ。
当時流行していた
オリエンタリズムを
感じられる1枚。

フレデリック・グドール

《ヌビア人奴隷の唄》

1863年 油彩・カンヴァス

日本
初公開



©Royal Academy of Arts, London; photographer: John Hammond

Ⅲ. 名声と繁栄、1867-1895

Prestige and Prosperity,
1867-1895

ますます増えていくコレクション、そして年次展覧会への出品作品数。これらに対応するため、アカデミーは1867年にロンドンの中心街、ピカデリー・サーカス近くにあり、より広い場所が確保できた「バーリントン・ハウス」への移転を決めました。ここは現在でもアカデミーの本拠地となっています。年次展覧会を訪れる人は増え、1881年には約39万人が訪れました。芸術家にとって、年次展覧会に自分の作品が展示されることは、その後のキャリアアップにつながることであり、皆競って出品し、アカデミーは繁栄の時代を迎えます。

この時代、古代の神話や伝説は画家たちにとってインスピレーションの源であり続けました。画家アルマ＝タデマらは、古代ギリシャ・ローマの実際の姿を再現しようとしました。また1848年に結成された「ラファエル前派」も、アカデミーに大きな影響を与えました。

大理石や衣服の質感、
壺や小像の
精緻な表現は必見。

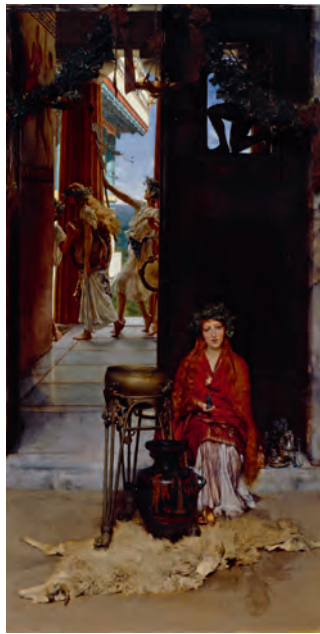


©Royal Academy of Arts, London; photographer: John Hammond

▲ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス
《人魚》 1900年 油彩・カンヴァス

初期ラファエル前派時代とは異なる、勢いのある大きな筆使いに注目。

ジョン・エヴァレット・ミレイ ▶
《ベラスケスの思い出》
1868年 油彩・カンヴァス



©Royal Academy of Arts, London; photographer: John Hammond

ローレンス・アルマ＝タデマ
《神殿への道》 37年振りの来日
1882年 油彩・カンヴァス



©Royal Academy of Arts, London; photographer: John Hammond

見る者を誘惑するような人魚は、まるで古代ギリシャ神話のセイレーンのよう。

IV. モダンの受容：黙認と妥協、1895-1918

Embracing the Modern: Complicity and Compromise, 1895-1918

19世紀末、パリ等で学んでいたイギリスの画家たちの帰国によって、自然主義や印象派などの新しい表現がロンドンにもたらされました。その影響は、アカデミーにも及びました。アカデミーに対抗しようとする動きもみられるようになり、特にクラウセンやサージェント等の若い画家たちにより、1886年に設立された「ニュー・イングリッシュ・アート・クラブ」は、アカデミーにとって脅威となりました。これに対し、当時の会長レイトンは、1895年クラウセンをアカデミー会員に迎えたことを手始めに、その後他のメンバーも会員とし、衝突を回避することに成功しました。

このようにアカデミーは、自らの地位を保ちながらも、時に柔軟な態度を示すことで、現在に至るまで、イギリス美術界に大きな影響を与え続けています。



©Royal Academy of Arts, London; photographer: John Hammond

自由な筆致で
イタリアの美しい庭を
描いた作品。

ジョン・シンガー・サージェント
《庭の女性たち、トッレガッリ城》
1910年 油彩・カンヴァス

流れるような筆法で、
窓からさしこむ柔らかな光を表現。
イギリス絵画の新時代を
感じさせる作品。



スタナップ・フォーブス
《港に面した窓辺》
1910年 油彩・カンヴァス



©Royal Academy of Arts, London; photographer: John Hammond

V. アーティスト教育 Educating the Artist

アカデミーのライブラリーには、附属の美術学校の実技実習を補うために集められた版画、素描、書籍、写真等さまざまな資料があります。学生たちには、過去の優れた作品を参照し、流行に捉われずに歴史的に大きな視野に立って見るのが求められました。また、実物を本物のように描くための技術も重要とされました。本展ではそうした技術習得のために用いられた様々な書籍・資料や、当時の若い学生たちによるデッサンなど、アカデミー初期の教育を知ることのできる貴重な作品を一堂に展示します。

本章出品作品はすべて日本初公開！



©Royal Academy of Arts, London

ミレイが
わずか12歳で
描いたデッサン！

ジョン・エヴァレット・ミレイ
《パンクラティオン》
1842年 鉛筆、チョーク・紙



©Royal Academy of Arts, London; photographer: Prudence Cumming Associates Ltd.

19世紀ヨーロッパに
大きな影響を与えた色彩理論書。

ミシェル＝ウジェーヌ・シュヴルール
《72の明色による色相環
(シュヴルール『色の定義と命名法』[1861年、パリ]
の図5)》 1861年 4版重ねのカラー銅板印刷

幾度もの解剖に基づいて描かれた、
馬の画家スタッブズのデッサン。

ジョージ・スタッブズ
《「馬の筋肉解剖図 第10図」のための
最終習作》 1756-58年 鉛筆・紙



©Royal Academy of Arts, London

関連事業

【講演会①】「ロイヤル・アカデミーが目ざしたものーその理想と現実」

【日時】 1月10日(土) 14:00～15:30 (開場:13:30)

【講師】 人見伸子氏(成蹊大学講師) 【会場】 当館 多目的室 【参加料】 無料

【定員】 70名(応募多数の場合は抽選) 【申込締切】 12月19日(金) 必着

【講演会②】「グランド・ツアー盛期のイギリス人たち」

【日時】 1月11日(日) 14:00～15:30 (開場:13:30)

【講師】 小針由紀隆氏(静岡文化芸術大学教授) 【会場】 当館 多目的室 【参加料】 無料

【定員】 70名(応募多数の場合は抽選) 【申込締切】 12月19日(金) 必着

【ギャラリートーク】

【日時】 12月13日(土)、1月17日(土) いずれも14:00～(40分程度)

【参加料】 無料(要観覧券) ※申込不要(当日受付前にお集まりください)

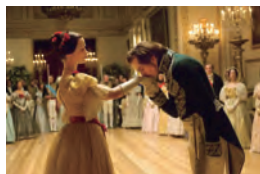
【Shizubi シネマアワー vol.13】 英国と二人の女王

さまざまな映画を上映する「Shizubi シネマアワー」。第13回目は、「ロイヤル・アカデミー展」にあわせ2本の映画を紹介します。

①12月21日(日)

『ヴィクトリア女王 世紀の愛』

2009年/イギリス・アメリカ/102分
ジャン＝マルク・ヴァレ監督



©2008 GK Films, LLC All Rights Reserved

②12月28日(日)

『クイーン』

2006年/イギリス・フランス・イタリア
104分/スティーヴン・フリアーズ監督



©2006 GRANADA SCREEN (2005) LTD/
PATHE RENN PRODUCTION SAS/
BIM DISTRIBUZIONE

【時間】 14:00～(開場13:30) 【会場】 当館 多目的室 ※簡易の映像設備での上映になります。

【参加料】 500円(チケット制) ※11月8日より当館受付にて販売(定員になり次第販売終了)

【定員】 70名 【企画協力】 (株)サールナートホール

【しずびちびっこプログラム】

小さな子ども達のためのアート体験プログラム。保護者の方は展覧会をご覧ください。

【日時】 1月17日(土) ①10:30～12:00 ②14:00～15:30

【対象】 2歳以上の未就学児 各回10名 【会場】 当館 ワークショップ室

【参加料】 子ども1人につき500円(保護者は要観覧券) 【申込締切】 12月24日(水) 必着

※はがきでの申込は官製はがきに保護者の氏名・子どもとの続柄・住所・電話(緊急連絡先)・子どもの名前・子どもの人数・性別・年齢(月齢まで)・希望の時間を明記

申込方法

当館HP申込フォーム(www.shizubi.jp)または往復はがきにて。1件につき4名様まで。

【往復はがき記載事項】 ①催事名、催事日 ②氏名(参加人数分) ③年齢 ④住所(郵便番号から) ⑤電話番号、返信面に宛先を記入の上、静岡市美術館まで。※抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。